

中洲における人々と店との繋がりに関する研究 —日本の歓楽街を再び認識する

高 莉娟

1、研究の背景

日本の都市部には、代表的な歓楽街がある。例えば東京の歌舞伎町、銀座、大阪の北新地、ミナミ、九州では福岡の中洲など、多くの人々に知られている。筆者は居酒屋でのアルバイトを最初のきっかけとして、中洲に入った。そこで日常に起こっているたくさんの事が筆者にとっては、全てが新鮮で面白く、不思議で驚いたことも数え切れない。中洲にある様々な業種、それぞれの店、多くの人々は、どういったもので結ばれているのか。中洲にいる人々の動きから、隠されている人と人、人と店、店と店の繋がりを明らかにすることは本研究の目的である。

2、研究の対象地と中洲の業種現状

現在、中洲の飲食・風俗店は 3500 軒以上。働く人の数は 3 万人を超える。1 日に中洲に遊びに来る人約 6 万人である（中洲観光協会より）。主な飲み屋—スナックやクラブ、様々な飲食店、この地区に合わせて出来上がった特殊な付随産業など実に様々である。

3、調査方法

路上観察、インタビュー、及び自らの体験参与観察の 3 つ調査法を用いて、調査を行った。

3-1 路上観察

3-1-1 観察目的

中洲の昼と夜の光景やどのような動きが具体的に起きているのかを掴むため、昼と夜、週末（金）と平日（水）に分けて、観察を行った。

3-1-2 観察場所

歓楽街が広がっている中洲大通り、中洲 1 丁目、2 丁目、3 丁目、4 丁目及び春吉 3 丁目を観察した。

3-1-3 観察する日時

1 回目 2009 年 10 月 16 日（金曜日）の夜 7:00～9:00 0:30～2:30

2 回目 2009 年 11 月 4 日（水曜日）の昼 11:30～14:00

3 回目 2009 年 11 月 18 日（水曜日）の夜 7:00～9:00 0:30～2:30

3-1-4 記録方法

カメラ、記録用のノートを用いた

3-1-5 観察結果

昼間の観察結果

街全体は活気がなく、この地区では昼間に花屋やケーキ屋などが殆ど閉まっている。仕入れや工事のため大通りに停まっているトラックが見られる。店の玄関前におしぼりや空瓶が置かれている。ソーランドとラブホテルは人の出入りがあり、昼でも営業している。

夜の観察結果

1 回目の週末の方が 3 回目の平日よりも、路上も店内も大勢の人が騒いでいる様子が多く観察された。また、ある特定の時間帯には（スナックやクラブの同伴やアフター）により、ホステスとお客さんが頻りに様々な店に出入りする光景が多く見られる。居酒屋やラーメン屋に多くのお客さんがいる。大通りには配達や出前をするため、ビルに出入りする従業員姿がよく見られる。

3-1-6 考察

昼間の観察結果から、例えば、建設会社の従業員（人）はメンテナンスを行うためにスナックやクラブ（店）に出入りすることによって、①のような店（建設会社）と店（スナックやクラブ）の間の売買関係が発生したと考えられる。

夜の観察結果により、ホステスとお客さん（人）は同伴やアフターのため、彼らが居酒屋（店）に出入りすることによって、②のような人と店の間の売買関係を発生したと考えられる。（図 1 を参考）

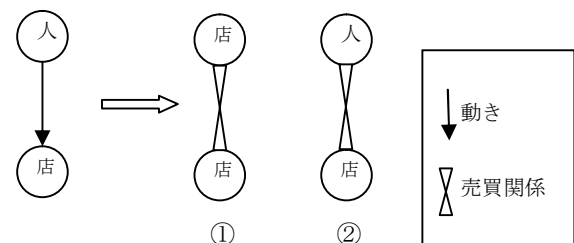


図 1

3-2 インタビュー

3-2-1 インタビューの目的

中洲は飲み屋が数多く集まっている。そこにいる人々の行動により、人と人、人と店、店と店の間の繋

がりを明らかにするため、そこに居る人々の話に直接インタビュー調査を行った。

3-2-2 インタビュー対象及び選んだ理由

業種により、A 飲食関係 (3 軒)、B 飲食関係以外 (5 軒)、C スナックやクラブのママ (2 人)、D お客さん (2 人) の 4 グループに分けて、インタビューを行った。

A グループ 3 軒はもつ鍋芋、焼鳥居酒屋しんちゃん、お好み焼ぼてじんである。

B グループ 5 軒はカプセルサウナーアオシス (仮名)、第五いやし空間みらい館 (マッサージ)、オークルボトルショップ、ABC フラワー、CANDY ドレス屋である。

C グループはスナック洒落 (仮名)、クラブ Angel (仮名) のママ 2 人である。

D グループは中洲飲み経験が 15 年ぐらいの藤さん (仮名)、30 年ぐらいの稲長さん (仮名) 2 人である。

3-2-3 実施日時・場所

2010 年 1 月 3 日、5 日、6 日、7 日、それぞれ 30 分～1 時間程度、各店の店内や近くのカフェでインタビューを実施した。

3-2-4 方法

補足説明紙 (調査の目的、個人情報保護) 1 枚とそれぞれ 4 パターンの質問紙を作成し (それぞれ後ろに付録)、インタビューを実施する前に各インフォマントに提示し、彼らの了解を得た上で、ICレコーダを使いながら会話を録音し、文字を起した。

3-2-5 質問項目の作成

中洲での働いた経験により、本論文で取り上げた問題を明らかにするため、繋がりを中心に質問項目を作成した。

質問項目の例

○中洲について感じた魅力

理由：筆者は中洲で働いている時には“ここは中洲だから・・・”という言葉をよく耳にし、印象が強かった。働けば働くほど、最初は不思議だったり理解できなかつたりすることがだんだん理解できていくことに気がついた。実際“中洲”という言葉はそこで働いている人々、そこに飲みにくるお客さんにとってはどういう意味を持つのかを聞くことにより、彼らは中洲に対して誇れるものは何であるかを尋ねたい。

○印象に残った人情に関する仕事のエピソード

理由：筆者が中洲で働いている時、そこに居る多くの商売人は商売の本質、売り上げよりもっとこころに感じた喜びがあると強く感じて、また、飲みにくるお客

さん達はただお金を払って、酒を飲んでストレスを解消という目的より、心を癒されることが分かった。彼らに対して、そこで感じたぬくもりを聞くことにより、中洲での人と人の心の繋がりがもっと分かってくるだろう。

○近隣の店とのよりよい関係を保つ工夫など

理由：中洲でよくホステス、ママから「○○の店から、お客さんを紹介していただいた。」と聞いた。その言葉から中洲の中の近隣関係が彼女達に大事に思われていると思われる。彼女たちは紹介してもらうため、近隣関係とどういふふうにつき合っているのかを知ることにより、中洲での店と店の間の繋がりが見えてくるのではないかと考えた。

3-2-6 インタビュー結果の記述・分析

質問の結果や分析の例

○中洲について感じた魅力

「もつ鍋芋：中洲の人たちが言う言葉に社交辞令がない。例えば“今日おいしかったね。今度誰々ちゃん紹介するね”って言ったら、本当にその人がちゃんと紹介してきてくれる。やっぱね、義理、人情というのはそういうところ。裏切らない。自分の言葉に必ず責任をもつ。今度来るねって言ったら、きてくれる。きてくれたらこっちは挨拶しにいかないといかんって、恩義だよな。」「ABC フラワー：博多というのは人情の町、本当に人の繋がり、人懐っこいですね。やはり笑顔が多い町と思いますね。」と述べている。

このような話から、人の繋がりが中洲に多く存在し、このエリアでの紹介が一方向に見えるとしても、そこで終わりではなく、必ずいつか向こうの店からまた、紹介される。ある意味ではお互いの意味をもつ。

○印象に残った人情に関する仕事のエピソード

「アオシス：仲良くなったお客さんが帰られた後エメールが届いたり、後僕名札とかしてなくて、名前を呼んでくれたりとか、そういうことをされると嬉しい。」「ぼてじん：最初働いた頃お父さんと子供が一緒に来た家族があつてその人たちが 20 年一緒になったらその人が大きくなって、その人が結婚する、奥さんを連れてくる。で子供が生まれましたと連れてくる。それはすごい自分も長く働いたなという気持ちがある。それは嬉しいこと、すごいなと感じた。」「ABC フラワー：感動することが多くて、男性客に転勤して又戻って、出張できた時必ず覗いてくれる方がいますよ。って又、居ったかっていう感じで出会い、それがやはり嬉しいですね。覚えてくれて、というのは嬉しい。後はもう中洲に来たら、バラ 1 本をここで買ってから

行きお客さんもいる。なんかここに寄らないといかんという気持ち、楽しく話して、そんなのは普通には嬉しいですね。」と述べている。

このような話によると、中洲は人がよく集まる場所、お客さんから覚えてもらって、お客さんとの長い付き合いで結ばれた感情が強く感じられる。

○より良い近隣関係を保つ工夫につて

「しんちゃん：(他の業種にかんしては) 花屋さん誕生日の時はいるし、後バーとかでもいるやろうし、僕たちはあそこお茶屋さんタバコはあそこにしか買わないし」、「スナック洒落のママ：(もちつもたれつ) 人の繋がり、人の紹介という意識をして、居酒屋さんとか、お魚屋さん、小料理屋さんとか、そこからの紹介とか、マスターがくるとか、来るからまた行く。そういう付き合い。お客さんを紹介してくれる店にはやはりこっちも優先にして使えば当然。紹介された店に私もお客さんとの同伴の時にそっちの店を使う。大きい団体の時はゴルフの帰りの10人、12人、一人1万とか大きい時は必ずそこに入れる。そのバランスが駄目な時でも長い意味で見ましようみたいな感じ。」

「Angel のママ：向こうはどういうふうに対応してくれたら、こっちもどういふふうに対応する。人間関係とか、お客さん連れて行ったら、向こうもちゃんとしてくれる、横の繋がりみたいなのはある。」と述べている。

この話によると、店と店の間、人の動きにより、お互い繋がっていく。

3-2-7 インタビューからの考察

彼らの話によると、中洲にある店同士は近隣であるため、お互い利用し合う。それぞれの従業員の動きにより、人と店、店と店の間の付き合いができると考えられた。例えば、スナックのママ(人1)が料理店(店2)に行く動きにより、図2の①のようなママと料理店の売買関係が発生し、ママと料理店の繋がりができた。また、料理店の店長(人2)が料理店を代表して、ママのスナック(店1)に挨拶に行ったら、図2の③のような料理店とスナックの間の繋がりができたと考えられる。

一方、ママはホステス達を連れて、スナックを代表して、料理屋に食べに行ったら、図2の③のようなスナックと料理屋の間の売買関係が発生し、図2の②のようなスナックや料理屋の間の繋がりが出来たと考えられる。また、彼らの話により、彼らが普段の付き合いからお互いにお客さんを紹介したり、紹介されたり、することによって、一層店と店の間の繋がりを深めていく。

中洲の“紹介”とは一方的な意味ではなく、紹介し

たら、必ず、いつか、紹介されるという相互の意味があると考えた。また、“紹介”で人と人、店と店の間の繋がりは、実際どういう出来事があるか、繋いでいくのか、どこまで繋ぐのかをはっきりされなかった。

(図2を参考)

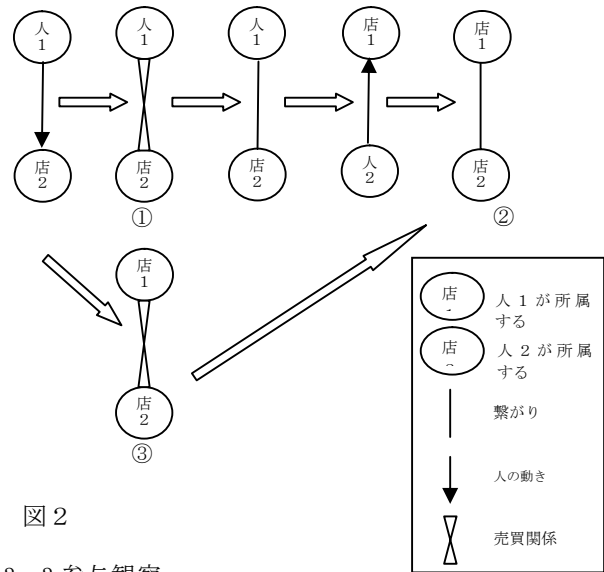


図2

3-3 参与観察

3-3-1 観察目的

日本しかない飲み屋形式というものは何なのか、スナックの日常運営はどういふふうになっているのか、また、歓楽街の主な飲み屋はホステスにとって、どういふ環境なのか、その特定の環境の中で、人、店、それぞれどういふ繋がりができるのか、飲み屋に入って、自らの体験から検証した。

3-3-2 日時・場所

日時：2009年7月～2009年9月 2ヶ月間 毎週3回 木曜日、金曜日、土曜日

場所：第3ラインビルのスナックステージ(仮名)

3-3-3 記録・分析

印象深かった出来事は筆者の記憶をもとに、体験を思い起こしながら記述した

3-3-4 エピソード1～5(各図)

3-3-5 それぞれの小考察

例1 エピソード1を通して、2つの繋がりのパターンが分かった。

店を軸として、「人-店-店」というパターン

説明：新規のMさん(人)はラーメン屋うまちゃん(店1)と元々知り合いのため、Mさんとラーメン屋うまちゃんの間には繋がりがあ

ある日、Mさんは一年ぶりに出張で福岡に来た時、夜、ラーメン屋うまちゃんに食べに行こうと思った。

Mさんはラーメン屋うまちゃんに行ったら、その時、丁度ラーメン屋うまちゃんが満席だった。

ラーメン屋うまちゃんとお好み焼山ちゃん（店2）はお隣同士の店であるため、お互い繋がりがある。

Mさんはラーメン屋うまちゃんから横のお好み焼山ちゃんを紹介された。

Mさんはお好み焼山ちゃんに入って、お好み焼を食べた。そこでお好み焼山ちゃんとの売買関係が出来た。

（図3を参考）

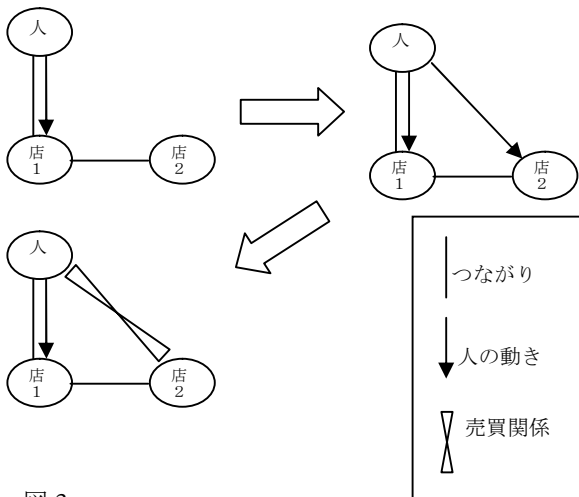


図3

店を軸として、「店-店-店」というパターン。

説明：ラーメン屋うまちゃん（店1）とお好み焼山ちゃん（店2）はお隣同士の店であるため、お互い繋がりがあある。また、お好み焼山ちゃんはいくみちゃんの行き付けの店であるため、お互い繋がりがあある。

くみちゃんはスナックステージ（店3）に属しているため、お好み焼山ちゃんはスナックステージとも繋がりがああると考えられる。

ラーメン屋うまちゃん（店1）はMさんにお好み焼山ちゃんを紹介した。Mさんはお好み焼山ちゃんに入って、お好み焼きを注文して食べた。

Mさんはせっかく福岡に来て、中洲に飲みに行きたいけど、店が知らないため、お好み焼き山ちゃんの店長に尋ねた。そして、Mさんはお好み焼山ちゃんからスナックステージを紹介された。

紹介されたMさんはお好み焼きやまちゃんからスナックステージのホステスクみちゃんの名刺をもらって、スナックステージに飲みに行った。

スナックステージで楽しんで遊んだ後、Mさんはくみちゃんからアフターを誘われて、一緒にお礼を返しにラーメン屋うまちゃんに行った。

ラーメン屋の代表にお礼を言いに行ってきたくみちゃんはそこでラーメン屋うまちゃんに挨拶することにより、ラーメン屋うまちゃんとお互い知り合った。ラーメン屋うまちゃんとくみちゃんの所属しているスナックステージの間にも繋がりができたと考えられた。

（図4を参考）

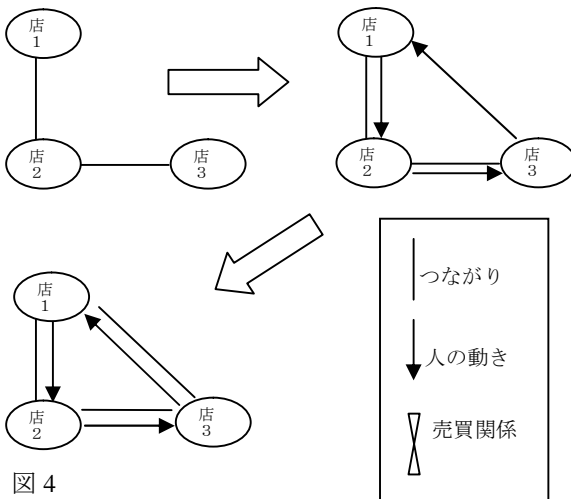


図4

3-3-6 各エピソード考察のまとめ

五つのエピソードを通して、「人-店-店」、「店-店-店」、「人-人-人」、「人-人-店」、「人-店-人」、「店-人-店」（軸は□で示す）の6パターンの繋がりが明らかに存在していることが分かった。中洲にこのような三角モデル関係が最初のユニットとして考えられる。

4、総合考察

明らかになった三角形の繋がりは中洲という歓楽街の中で最もシンプルな最小のユニットとして考えられる。

中洲は人情がある町だと多くの人々に思われている。実に人情という言葉に表されるような人と人、人と店、店と店の繋がりがただの売買関係を越えて、中洲に存在している。

また、歓楽街にあるたくさんの三角形のような繋がりは人情に満ちている町というバックグラウンドの下で膨大化し、それぞれ繋がって、アメーバのようなものになっていると考えられる。今後中洲の街に存在する人と店はどのようなふうにお互いが関係しあい、お互い調和しながら持続していくのかこれからの課題である。

謝辞

本研究にあたり、中洲にある店の方々にご多大なご協力をいただきました。記して深く感謝いたします。

参考文献

服部銈二郎 1977 都市と盛り場 一商業立地論序説 一 同友館 P142、P147
 サントリー不易流行研究所=編著 1999 変わる盛り場「私」がつくり遊ぶ街 学芸出版社 P204
 清水馨八郎・服部銈二郎 1970 都市の魅力 鹿島出版会 P140